

都道府県名

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	由岐町立 由岐小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	0	6	10
児童数	14	11	16	20	26	23		110	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力を身につけ、ともに学ぶ児童の育成
～学ぶ楽しさを追求する学習の創造～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

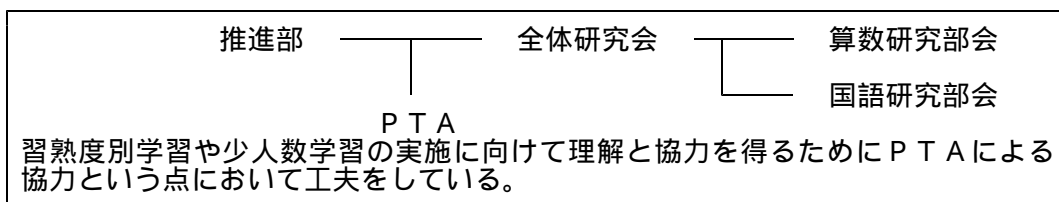
- ・ 6年生・算数
児童の学力に差が現れ始める段階であり、指導の効果も出やすいと考えられる
- ・ 5年生・算数
児童の理解の状況がわかりやすい学年であるため
- ・ 4年生・算数
教科的に学力の差が出始める時期ではないかという仮定のもとに研究していく
- ・ 3年生・算数
教科的に理解度に差が出やすい学年であり、児童の実態からも必要と判断した

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	
平成15年度	<p>確かな学力を身につけ、ともに学ぶ児童の育成 研究の見通し 児童の実態から一人ひとりの理解力や関心に応じたきめ細かい指導の一層の充実を図り、学ぶ楽しさ、わかる喜びを実感させるように創意工夫していく。そのために、今年度はT T指導の工夫と指導体制の改善をする。</p> <p>研究の内容・方法 ・算数科におけるT T指導（少人数指導）法の工夫と指導体制の改善 今年度は、高学年に加配を配置し、担当学年による算数科の指導体制や指導法の工夫改善を実践している。単元の内容を見通し、各学年の児童の実態に応じて少人数指導なども取り入れている。</p>
平成16年度	<p>確かな学力を身につけ、ともに学ぶ児童の育成 ～学ぶ楽しさを追求する学習の創造～ 研究の見通し T T指導法の長所となる改善点をもとに少人数指導の指導法の工夫に取り組んでいく。習熟度別学習に向けての体制作りを研究していくとともに指導方法の研究をしていく。</p> <p>研究の内容・方法 児童の実態と単元の内容に応じて学級を2グループ、3～4グループに分けた指導方法の工夫を実践する。習熟度別指導に向けての体制を整えて基礎コース、発展コースによる効果的な指導の実践に取り組む。</p>

* 平成15年度からの新規校については、平成15、16年度の計画について記入すること。

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

平成15年度はT T指導法の工夫改善であった。全体的学習におけるT T指導の効果的な指導法には対象となる人数においてグループ学習、少人数学習、個別指導と分け、研究を進めてきている。個別指導、少人数指導ともに意欲や関心に配慮した指導法の工夫をした。今年度1年間の成果はデータとしては整理できていないが、児童それぞれの意欲や態度に成果が現れてきている。

2. 今後の課題

最終年度における課題は習熟度別学習における効果的な指導法の工夫改善である。学年当初において客観データを基礎資料として分析し、少人数指導から習熟度別学習への過程で効果的な指導法を研究実践していくことを計画している。

学力等把握のための学校としての取組

4月(前学年までの学力を)学力診断実施
 7月一次(計算・漢字)調査と分析
 10月二次(計算・漢字)調査と分析・上半期の総合的な評価
 12月三次(計算力・記述力)調査と分析
 2月四次調査と分析・総合的な評価

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

4月26日(月)説明会	11月19日(金)公開授業と研究会
5月28日(金)第1回研究会・説明会	12月20日(月)調査結果と分析
6月25日(金)公開授業と説明会	2月21日(月)公開授業と研究会
7月2日(金)公開授業と研究会	
7月12日(月)調査結果と分析	
10月21日(木)公開授業と研究会	

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無